

平成20年度 森林及び林業の動向(第1部 森林及び林業の動向)の構成と内容

【特集テーマを「低炭素社会を創る森林」(仮称)とした趣旨】

- 地球温暖化が進行する中、我が国は、「世界全体の温室効果ガス排出量を現状に比して2050年までに半減」という長期目標を国際的に提案するとともに、我が国として2050年までの60～80%の削減に向け、経済・社会・ライフスタイルのすべてを変革する「低炭素社会」の実現を表明。
- 京都議定書の森林吸収目標の達成に向けて間伐等の森林整備を進めている中、国全体を「低炭素社会」へと動かしていく新たな仕組みとして「見える化」「カーボンオフセット」「国内排出量取引」という新たな取組が急速に進展するとともに、森林資源の新たな利用方法の開発も進められるなど、今後の森林整備や木材利用に大きな可能性が開けつつある状況。
- このため、20年度白書の特集では、地球温暖化防止に果たす森林の役割や温暖化防止に向けたこれまでの取組を概説した上で、これらの新たな取組を幅広く紹介し、今後の森林・林業や山村の方向性を提示することとする。

【各章の構成と内容】

I 低炭素社会を創る森林 1 地球温暖化と森林 2 地球温暖化防止対策と低炭素社会づくり 3 低炭素社会に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化の現状や温暖化防止に果たす森林の役割について記述。 ・気候変動枠組条約・京都議定書に係る取組から低炭素社会づくりまでの一連の経緯について、森林との関わりを中心に記述。 ・京都議定書の削減目標の達成に向けた間伐等の森林整備の状況、木質バイオマスのエネルギー利用や森林資源を活用した新たなビジネスの創造、「見える化」「カーボンオフセット」「国内排出量取引」など社会の低炭素化に向けた新たな取組について記述した上で、今後の森林・林業や山村のあり方について記述。
II 多様で健全な森林の整備・保全 1 多様で健全な森林の整備 2 国民の安全・安心の確保のための国土の保全等の推進 3 森林・林業に関する国際的な取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の森林を巡る動向、生物多様性の保全、花粉症対策等について記述。また、ボランティアや森林環境教育、地方公共団体の取組等について記述。 ・効果的・効率的な治山事業、森林病虫害対策等の取組について記述。 ・世界の森林資源の現状と持続可能な森林経営の推進に向けた国際貢献について記述。
III 林業・山村の活性化 1 林業の現状と課題 2 山村の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・森林経営や林業従事者の現状とともに、木材の安定供給に向けた施業の集約化や路網と機械の組み合わせ等による低コスト化に向けた取組等について記述。 ・山村の現状、山村の活性化対策等について記述。
IV 木材需給と木材産業 1 我が国の木材需給と世界の木材貿易 2 木材産業をめぐる動き	<ul style="list-style-type: none"> ・需給量、自給率、価格の動向について、国際的な資源問題も含めて記述するほか、集成材、合板の動き等について記述。 ・住宅着工の動向、木材の利用拡大に向けた取組等について記述。
V 「国民の森林」としての国有林野の取組 1 国有林野に期待される役割 2 「国民の森林」としての管理経営 3 国有林野事業における改革の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・国有林野が果たしている役割や国有林野に対する国民の期待等について記述。 ・優れた自然環境を有する森林の維持・保存や国民参加の森林づくり等の様々な取組について記述。特に、岩手・宮城内陸地震への対応について記述。 ・国有林野事業における改革の動きについて記述。